自己評価結果公表シート・学校関係者評価

令和４年度末

北恩加島幼稚園

1、園の教育目標

生涯にわたる人格形成の基礎を培う最も重要な時期を担うことを肝に銘じ、発達の特性をふまえながら、幼児期にふさわしい生活を展開することを通して、健康で豊かな感性と創造性、自立と協同の精神をもつ子どもを育成する。

＜たくましく心豊かな子どもに育てる＞

・自分で考えて行動する子ども　・やさしく思いやりのある子ども　・友達となかよく遊ぶ子ども

＜子どもの目標＞

「あかるく」　「なかよく」　「げんきよく」

2、本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した幼稚園評価の具体的な目標や計画

評価項目に沿って具体的に自己点検、自己評価、相互評価を実施することによって、教職員自らがスキルアップに努めると共に、施設・設備の改善や教育内容の改善等に主体的に取り組むことを重点目標とする。

3、評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
幼稚園教育要領の精神を踏まえ、園の教育理念や教育方針にしたがい、教育課程を編成する。	教育課程について、より共通の理解を深めるため協議し、課程の編成に努めた。
指導計画は教育要領や教育課程、子どもの実態などをもとに考えて作成している。	前年度の反省をもとに毎年、指導計画に加筆・訂正を行い、子どもの実態に即した内容になるよう努めてきた。
子どもが自ら活動を展開していけるような場や空間等、人的・物的環境を構成する。	子どもが主体的にかかわれるように意図的に環境構成に創意工夫すると共に支援のあり方についても研究してきた。
子どもの実態を的確につかみ、計画的・具体的な手立てを講じる。	日々の記録を参考にして、子どもの実態を把握し、日案の作成に反映させるようにしている。
常に子どもの健康に留意すると共に、園内の安全にも配慮し、適切に処置する。	登園時より、子どもの様子をよく観察し、適切に対応するよう心がけている。また、日々の安全点検に努め、危険予知能力を高め、対処するように努めている。
人権感覚を高めると共に、あこがれを形成するモデルとしての姿を心がける。	子どもの気持ちに共感しながら、善悪の判断・いたわり・思いやり等の道徳性を発達段階に応じて日々指導してきた。
各クラスの研究主題を設定し、成果と課題を報告し合うと共に、教職員全体の共通理解を深める。	各クラスで年間や毎週・日々の目標を設定し、週案で達成状況を報告し合うようにしている。また、特に配慮を要する子どもについては、全教職員で話し合い、対応できるようにしている。
子どものよさを認めて評価しようとしている。	一人ひとりの子どものよさを認め、教職員が観客的に子どもを見る目を養うよう努めてきた。
規則正しい生活習慣の定着に向けての指導・支援を行う。	登園から降園までの一日の流れの中で、身に付けてほしい生活習慣を徹底させてきた。
設定保育や実技研修会を行い、指導力を高める。	設定保育研修会を計画的に行い、協議し、よりよい保育環境の構築とスキルを高めるよう努めてきた。
各研修会や研究会に積極的に参加し、その成果を提供し合う。	各種研修会や研究会に積極的に参加したり、講師を招いたりしての園内研修会を行い、学んだことを資料にまとめ、職員会議において提供し、共有化を図るようにしてきた。
園だより、クラスだより、ホームページ等を通して、幼稚園の情報を発信する。	園の教育方針や取組を情報発信するよう、積極的に取り組んできた。
教育目標や経営目標と連鎖した評価項目を作成し、ＰＤＣＡのサイクルを確立する。	ＰＤＣＡを常に念頭におき、反省・改善に努め、さらに充実した教育経営になるよう努めてきた。

4、幼稚園評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

教職員一人ひとりが日々の活動や行事における目標を常に心に留め、自己点検・自己評価し、学年間・職員会議で取組を協議することにより、本園としての方針を明確にすることができた。

また、評価項目を念頭において実践を積み重ねてきた結果、各自のスキルも向上してきている。

5、今後取り組むべき課題

課　題	具体的な取組方法
自己点検・自己評価	自己評価の結果に基づき、一人一人が自己の課題を明確にし、課題解決を図るよう研鑽に取り組んできたが、更に資質向上に向けての園外研修への積極的な参加や園内研修の充実を図る必要がある。
教育に関する情報収集と活用能力	指導計画がマンネリ化しないように常に見直しを行うと共に幼児教育に関する動向や考え方等について情報収集に努め、共有化してきた。 更に、それを具体的に生かした保育活動のあり方を追求する。

6、学校関係者評価委員会の意見

最近の少子化の中で園児数が安定していることは、園の運営や保育活動に対する高評価の結果であり、内容は次の通りである。

・園の教育方針に基づき、全教職員が情報交換を密にし、使命感に燃え同一姿勢で真摯に課題追及に努めていた。

・幼児一人ひとりが個性を発揮し、生き生きと活動している姿を見ることができた。

・情報公開（ホームページの充実や公開保育、地域との交流等）や学校評価にも積極的に取り組まれていた。

・未就園児保育（ひまわり組）を通して、3歳児よりの保育活動に生かされると共に、子育て支援にもなり、幼稚園運営上、高評価を得ることができた。